

発刊に当たって



本市は日本海に面し、信濃川や阿賀野川といった国内有数の大河が流れるとともに、佐潟、鳥屋野潟、福島潟といった湖沼が多数点在するなど、多様な水辺環境を誇っています。さらに、新津丘陵や角田山などの里山や、市域の約41%を占める広大な水田などを有しており、豊かな自然と農地が市民の生活空間の基盤となっています。私たちは、このような豊かな自然環境が高次の都市機能を有する都市部と融合し、互いに恵みあう田園環境都市を目指したまちづくりに取り組んでいます。

豊かな自然環境の存在は、われわれ人間だけではなく、多くの野生動植物の生息・生育環境としても重要な役割を担っています。例えば、間瀬海岸では日本海の海象の影響を受けて、分布南限となっているバシクルモンや分布北限となっているツボクサが混在するという興味深い地帯が形成されています。また、都市部周辺の広大な水田地帯は、越冬のために飛来したコハクチョウやオオヒシクイの餌場となっています。

一方、人間が行う開発行為や人の手が入らなくなることによる里山等の荒廃、外来種等による悪影響及び地球温暖化などにより既存の生態系のバランスが崩れ、一部の野生動植物の絶滅が危惧されるなど、生物の多様性の確保が大きな課題となっています。

そこで、市域内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生動植物の状況を明らかにするとともに、公共事業や各種開発行為に当たって自然環境配慮や野生動植物の保護対策の基礎資料として活用することなどを目的とし、平成14年度から絶滅危惧種の分布に関する現地調査やカテゴリーの検討などを進めて参りました。

本書は、この調査結果を踏まえ、本市における絶滅のおそれのある野生動植物について取りまとめたもので、市民の皆さんなどに本書が広く活用され、野生動植物の保護への理解を深めていただくとともに、生物の多様性が確保されるための一助となることを願っております。

終わりに、本書の作成に当たり、調査、研究、執筆、編集に携わられた関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成22年3月

新潟市長 篠田 昭